岡山理科大学紀要 第38号 B pp. 73-91(2002)

大学生の資格取得に関する意識調査報告(その２)

－岡山理科大学生の学業、資格取得への関心と態度－

中島弘徳・曽我雅比児・小山悦司*

大盛候穂**・青山祐輔**・宮地豊尚**・坪井俊憲**

古田絵里子**・折居奨太**・畑山洋介**・井上智恵**

岡山理科大学理学部基礎理学科
*倉敷芸術科学大学国際教養学部
**岡山理科大学理学部基礎理学科科学教育学研究室学生
(2002年11月１日　受理)

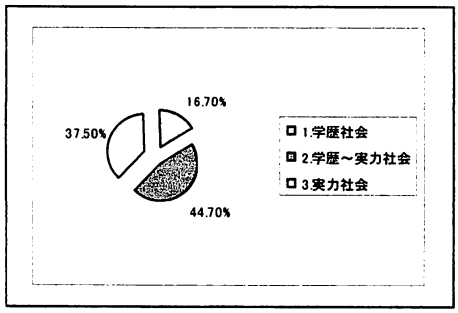
I. はじめに

「大学生の資格取得に関する意識調査報告（その１）」において、調査の概要並びに本学学生の学業に関する姿勢（調査項目のA.大学進学の理由からG.講義時間外の取り組み）について報告した。本報告では、残りの項目についての調査結果と意識調査（その１）の調査報告を踏まえたまとめを述べる。

II. 調査結果

H. 学生から見た今後の日本社会

問８．日本社会は今後どのようになると思いますか？（１つ選択）
１．現在と同様に学歴社会的傾向が続くだろう
２．現在は学歴社会的傾向であるが、将来は実力社会的傾向になっていくだろう
３．もうすでに実力社会的傾向になりつつあるだろう



今後の社会状況について、「2.学歴社会から実力社会」へと移行していると思う学生が44.7%とかなり多くみられ、「１.実力社会」と答えた学生も37.5%に上る。この二つを合わせると82%と５人中４人がどちらかを選んでいるという結果となり、ほとんど人が、近い将来実力社会になると考えていることがわかる。

問８とのクロス集計の結果、

パーセント（行）　：　学年，問8

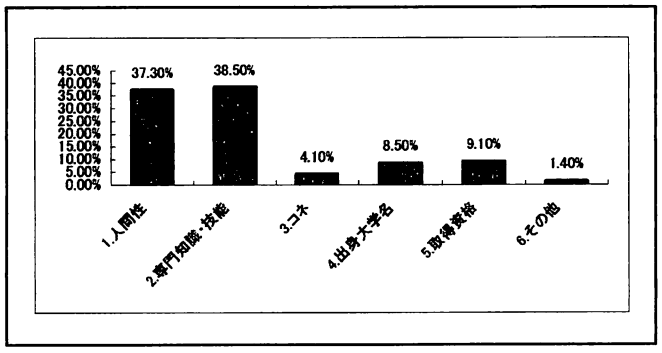
	1.学歴社会	2.学歴~実力社会	3.実力社会	合計
1年	17.0	46.8	36.1	100.0
2年	16.8	46.1	37.1	100.0
3年	16.0	43.4	40.6	100.0
4年	27.1	37.5	35.4	100.0
合計	16.8	45.2	38.0	100.0

学年で有意差が見られた。

クロスの結果、「1. 学歴社会」と答えた人が４年次では 27. 1%となっている。逆に「2. 学歴～実力社会」と答えた人が減少し４年次では 37. 5%となる。４年生は、実際に就職活動を行うことによって、１年生で想像していた事と実際の社会では異なっていて、やはりまだまだ学歴社会の傾向が強いということを実感した結果と考えられる。

I. 就職において採用側の重視する点

問９．今日、就職において採用側は受験者のどのような点を重視していると思いますか？（１つ選択）
１．人間性　　２．専門的知識・技能
３．親や親戚とのコネ　　４．出身大学名
５．取得している資格　　６．その他（　　）



就職の採用の点で大事なことに、「2. 専門知識・技能」と答えた割合が 38. 5%で「1. 人間性」と答えた割合が 37. 3%と同程度であった。この２つの数値が高いのは、近い将来は、実力社会になるという考えが多かったからであろう。

問９とのクロス集計の結果、学年で有意差が見られた。

パーセント（行）　：　学年，問9

	1. 人間性	2. 専門知識・技能	3. コネ	4. 出身大学名	5. 取得資格	6. その他	合計
1年	28. 4	43. 3	4. 4	10. 3	12. 3	1. 1	100. 0
2年	26. 3	45. 9	5. 3	10. 0	11. 2	1. 3	100. 0
3年	54. 1	30. 4	2. 9	6. 0	4. 8	1. 8	100. 0
4年	61. 2	22. 4	2. 0	8. 2	4. 1	2. 0	100. 0
合計	37. 7	39. 0	4. 0	8. 7	9. 2	1. 4	100. 0

クロスの結果から、学年があがるにつれて「1. 人間性」を答える割合が高くなり４年次では 61. 2%、「2. 専門知識・技能」を答えた割合が逆に減少し４年次では 22. 4%となる。これは、学年が上がるにつれて増えるアルバイトや就職活動などの社会経験から、「2. 専門知識・技能」よりも「1. 人間性」の方が重要だと感じた結果であろう。

問８・問９クロス

パーセント（行）　：　問8，問9

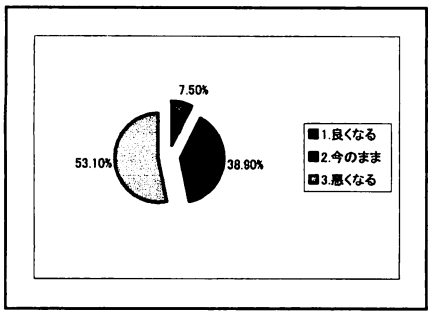
	1. 人間性	2. 専門知識・技能	3. コネ	4. 出身大学名	5. 取得資格	6. その他	合計
1. 学歴社会	28. 5	32. 3	7. 5	20. 6	9. 7	1. 4	100. 0
2. 学歴~実力社会	39. 2	39. 0	3. 9	7. 9	9. 2	. 9	100. 0
3. 実力社会	40. 0	41. 9	2. 9	4. 4	8. 8	2. 1	100. 0
合計	37. 7	39. 0	4. 1	8. 7	9. 1	1. 4	100. 0

クロスの結果、「学歴社会」と答えた人は「人間性」を答える割合が 28. 5%とあまり高くなく、「出身大学名」の割合が高くなっている。「学歴～実力社会」「実力社会」の数値から、実力社会とは、「専門知識・技能」だけでなく「人間性」も同様に重要視される社会であると考えているようである。

J．学生から見た日本の国際的地位

問10　日本の国際的地位は今後どうなっていくと思いますか？
１．良くなる　　２．今のまま　　３．悪くなる

日本の国際的地位は「3. 悪くなる」という答えが 53. 1%と過半数を超えている。逆に「１. 良くなる」という答えは 7. 5%と少ない。本学学生には、今の日本の政治経済について悲観的な人が多いようである。



問 10 とのクロス集計の結果、性別で有意差が見られた。

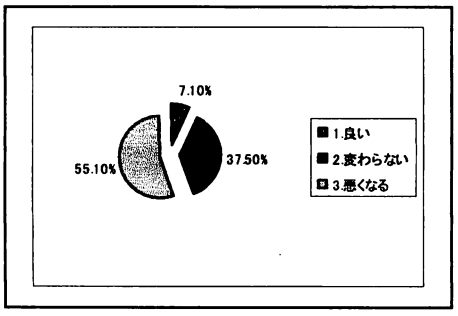
クロスの結果、男性のほうが「3. 悪くなる」と答える割合が 55. 6%と高い。女性のほうが、男性より楽観的なようである。

パーセント（行）　：　性別，問10

	1. 良くなる	2. 今のまま	3. 悪くなる	合計
1. 女	6. 9	49. 4	43. 7	100. 0
2. 男	7. 6	36. 8	55. 6	100. 0
合計	7. 5	39. 0	53. 5	100. 0

K．卒業時の就職状況予測

問11　卒業時の就職状況はどのようになっていると思いますか？
１. 良くなっている　　２. 今と変わらない　　３. 悪くなっている



卒業時の就職状況は「3. 悪くなる」と答える学生が 55. 1%と過半数を超え、「１. 良い」と答える学生が 7. 1%と少数である。こちらの問の結果でも、悲観的な人が多いようである。

問 10 と問 11 をクロスしたところ有意差が見られた。

パーセント（行）　：　問10，問11

	1. 良い	2. 変わらない	3. 悪くなる	合計
1. 良くなる	28. 8	36. 7	34. 5	100. 0
2. 今のまま	6. 6	50. 2	43. 2	100. 0
3. 悪くなる	4. 5	28. 5	67. 0	100. 0
合計	7. 1	37. 6	55. 3	100. 0

「日本の国際地位の悪化」と「就職状況の悪化」は比例するように思う学生が 67. 0%と大半であるが、日本の国際的地位が今後「良くなる」と答え、卒業時の就職状況は今後「悪くなる」と答える学生が 34. 5%もいるように、そうではないと思う学生も少しはいるようである。

問 11 とのクロス集計の結果、学年と学科で有意差が見られた。

クロスの結果、学年があがるにつれて「1. 良い」と答える学生は減少し４年次では０%となり、「変わらない」と答える学生は増加し４年次では 49%となる。学年が上がるにつれて、悲観的になっていくようである。

パーセント（行）　：　学年，問11

	1. 良い	2. 変わらない	3. 悪くなる	合計
1年	11. 3	36. 7	52. 0	100. 0
2年	7. 1	40. 2	52. 7	100. 0
3年	3. 3	35. 4	61. 3	100. 0
4年	0. 0	49. 0	51. 0	100. 0
合計	7. 1	37. 4	55. 5	100. 0

理学部

卒業時の就職状況について、応用数学科は「良い」と答える割合が最も高く 15. 4%、応用理学科は「悪くなる」と答える割合が最も高く 57. 2%である。基礎理学科は「変わらない」と答える割合が最も高く 48. 8%である。応用数学科に「良い」と答える人の割合が高いのは教員採用が上向きになり給料の増加の可能性が考えられるからであろう。

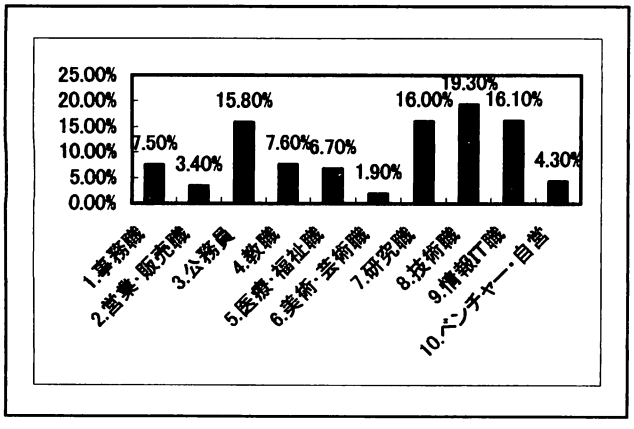
パーセント（行）　：　学科，問11

	1. 良い	2. 変わらない	3. 悪くなる	合計
1. 応数	15. 4	36. 1	48. 6	100. 0
2. 化学	5. 4	38. 7	56. 0	100. 0
3. 応物	8. 7	34. 1	57. 2	100. 0
4. 基礎	9. 8	48. 8	41. 5	100. 0
5. 生化	5. 9	37. 7	56. 4	100. 0
合計	8. 4	38. 3	53. 3	100. 0

L．希望職種

問12　将来就きたい職業は何ですか？（1つ選択）

1．事務職　2．営業・販売職　3．公務員　4．教職
5．医療・福祉職　6．美術・芸術職　7．研究職　8．技術職
9．情報ＩＴ職　10．ベンチャービジネス・自営独立　11．その他（　　）



グラフからもわかるように、「8. 技術職」が19. 3%と人気である。次に人気なのが 15. 8%の「3. 公務員、16. 1%の「9. 情報ＩＴ職」、16%の「7. 研究職」、の三項目で同程度の人気である。その半分ほどの人気なのが 7. 5%の「1. 事務職」、7. 6%の「4. 教職」、6. 7%の「5. 医療・福祉職」である。「6. 美術・芸術職」は 1. 9%と人気がない。

問 12 とのクロス集計の結果、学部、性別、学年、学科の全てで有意差が見られた。

パーセント (行)　：学部，問12

	1.事務職	10.ベンチャー・自営	2.営業・販売職	3.公務員	4.教職	5.医療・福祉職	6.美術・芸術職	7.研究職	8.技術職	9.情報IT職	合計
1.理学部	8.1	3.9	3.8	17.0	13.8	10.3	1.7	23.7	11.6	6.2	100.0
2.工学部	5.9	4.2	2.4	13.5	1.0	5.1	1.9	10.5	33.8	21.7	100.0
3.総合情報学部	10.2	5.8	4.8	19.1	7.4	1.6	2.6	10.2	8.2	30.3	100.0
合計	7.6	4.3	3.4	16.0	7.7	6.8	2.0	16.3	19.6	16.3	100.0

理学部で最も人気なのが「7. 研究職」で 23. 7%、工学部で最も人気なのが「8. 技術職」で 33. 8%、総合情報で最も人気なのが「9. 情報 IT 職」で 30. 3%。これらは習ったことを、就職の足がかりにしようという気持ちが反映したものだろう。どの学部も人気なのが「3. 公務員」である。これは安定した生活を求める気持ちが反映していると思われる。

パーセント (行)　：性別，問12

	1.事務職	10.ベンチャー・自営	2.営業・販売職	3.公務員	4.教職	5.医療・福祉職	6.美術・芸術職	7.研究職	8.技術職	9.情報IT職	合計
1.女	5.9	2.0	3.7	13.5	13.5	15.3	1.8	26.4	9.8	8.2	100.0
2.男	7.9	4.8	3.2	16.6	6.6	5.1	2.0	14.1	21.6	18.0	100.0
合計	7.5	4.3	3.3	16.1	7.8	6.9	2.0	16.3	19.5	16.3	100.0

女性で最も人気なのが「7. 研究職」で 26. 4%、次に「5. 医療・福祉職」が人気で 15. 3%、これは男性には人気が無い。女性で「7. 研究職」が多かったのは、「学ぶ意志」と答える人が多いのと関係しているかもしれない。男性で最も人気なのが「8. 技術職」で 21. 6%。これは、工学部の男性の割合が影響しているようである。次に人気なのが「9. 情報 IT 職」で 18. 0%である。

パーセント (行)　：学年，問12

	1.事務職	10.ベンチャー・自営	2.営業・販売職	3.公務員	4.教職	5.医療・福祉職	6.美術・芸術職	7.研究職	8.技術職	9.情報IT職	合計
1年	6.2	4.1	1.7	18.1	9.6	9.2	2.3	18.0	14.4	16.3	100.0
2年	7.6	5.3	1.3	18.4	9.0	5.3	2.3	15.8	19.4	15.8	100.0
3年	9.3	3.8	5.9	12.5	5.0	6.3	1.4	15.3	24.5	16.0	100.0
4年	6.1	6.1	14.3	6.1	6.1	0.0	0.0	10.2	26.5	24.5	100.0
合計	7.7	4.4	3.3	16.0	7.7	6.9	2.0	16.3	19.6	16.2	100.0

学年があがるにつれて「8. 技術職」、「9. 情報 IT 職」、「2. 営業販売職」の割合が高くなり、4 年次にはそれぞれ 26. 5%、24. 5%、14. 3%となる。これは、学んだことを足がかりに、確実に就職しようとしている結果であろう。逆に「3. 公務員」、「5。医療・福祉職」は割合が下がり、4 年次にはそれぞれ 6. 1%、0%となる。これは、採用の厳しさが反映していると思われる。

理学部

パーセント（行）：学科，問12

	1.事務職	10.ベンチャー・自営	2.営業・販売職	3.公務員	4.教職	5.医療・福祉職	6.美術・芸術職	7.研究職	8.技術職	9.情報IT職	合計
1.応数	13.0	2.2	1.4	21.7	43.0	1.8	1.4	1.8	3.6	10.1	100.0
2.化学	6.6	5.1	5.4	16.5	9.0	6.3	.6	27.8	17.7	5.1	100.0
3.応物	10.9	6.6	3.6	10.9	4.4	3.6	3.6	21.9	23.4	10.9	100.0
4.基礎	7.4	2.5	4.1	23.1	14.0	7.4	2.5	26.4	10.7	1.7	100.0
5.生化	5.4	3.6	4.0	14.6	2.0	21.3	2.0	33.9	8.7	4.5	100.0
合計	8.1	3.9	3.8	17.0	13.8	10.3	1.7	23.7	11.6	6.2	100.0

「4.教職」の割合が最も高いのが応用数学科で 43%、「7.研究職」の割合が最も高いのが生物化学化で 8.7%、「8.技術職」の割合が最も高いのが応用物理学科で 23.4%、「3.公務員」の割合が最も高いのが基礎物理学科で 23.1%である。

総合情報学部

パーセント（行）：学科，問12

	1.事務職	10.ベンチャー・自営	2.営業・販売職	3.公務員	4.教職	5.医療・福祉職	6.美術・芸術職	7.研究職	8.技術職	9.情報IT職	合計
1.情科	8.8	3.4	3.4	16.8	10.5	1.3	1.3	.8	6.3	47.5	100.0
2.シ物	6.2	9.2	1.5	15.4	4.6	0.0	4.6	18.5	15.4	24.6	100.0
3.生地	9.2	7.1	4.1	20.4	1.0	4.1	0.0	35.7	11.2	7.1	100.0
4.社情	16.7	8.8	10.8	25.5	7.8	1.0	6.9	2.0	4.9	15.7	100.0
合計	10.1	6.0	4.8	19.1	7.4	1.6	2.6	10.1	8.2	30.2	100.0

「9.情報 IT 職」の割合が最も高いのが情報科学科で 47.5%、「7。研究職」の割合が最も高いのが生物地球システム学科で 35.7%、社会情報学科では「1.事務職」と「3.公務員」の割合がともに最も高くそれぞれ 16.8%、25.7%である。

工学部

パーセント（行）：学科，問12

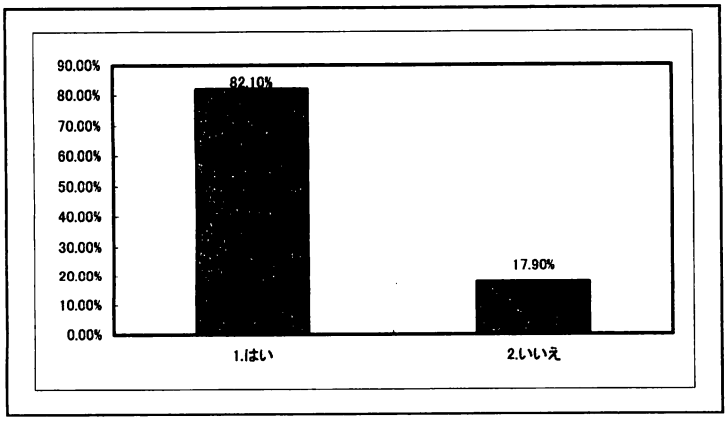
	1.事務職	10.ベンチャー・自営	2.営業・販売職	3.公務員	4.教職	5.医療・福祉職	6.美術・芸術職	7.研究職	8.技術職	9.情報IT職	合計
1.応化	5.8	5.4	2.5	17.3	1.1	9.0	1.1	26.6	28.4	2.9	100.0
2.機シ	3.3	2.3	2.3	15.0	.5	1.4	2.3	8.9	60.1	3.8	100.0
3.電工	9.0	3.4	3.4	12.4	.9	1.7	1.3	3.8	41.5	22.6	100.0
4.情工	6.4	4.5	2.0	11.2	.8	2.0	2.5	3.1	17.4	50.1	100.0
5.福シ	1.5	6.2	1.5	9.2	3.1	30.8	3.1	10.8	32.3	1.5	100.0
合計	5.9	4.2	2.4	13.5	1.0	5.1	1.9	10.5	33.7	21.7	100.0

応用化学科では「3.公務員」と「7.研究職」の割合がともに最も高くそれぞれ 17.3%、26.7%。「8.技術職」の割合が最も高いのが機会システム学科で 60.1%。情報 IT の割合が最も高いのが情報工学科で 50.1%。「5.医療・福祉職」の割合が最も高いのが、福祉システム学科で 30.8%である。工学部は、「8.技術職」と答える人が、多く見られる。

M．免許・資格取得の希望

問 13　在学中に免許・資格（教員免許と学芸員資格は除く）を取得したいですか？

1．はい　　2．いいえ



3,008 名の回答から、無回答（24 名）を除いてグラフにした。

この結果、約８割の学生が在学中に「免許・資格を取得したい」と答えている。これはただ大学を卒業するのではなく、何か専門的知識を学ぼうとして大学に来ている学生が多いからと考えられる。

次に、学年とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値が＜．0001となり有意差が見られた。一年次生が、「在学中に免許・資格を取得したい」（84.5%）と一番多く答えている。学年が上がるにつれ、「1.はい」と答える割合が減少している。４年次生になると「1.はい」（54.2%）と、答えた人が約半分に減少している。一年の頃は、まだ学校に慣れてなく時間に余裕があるのではないかと思う学生が多いためと考えられる。しかも学年が上がるにつれ実験などで忙しくなり、今から取り組んでも遅いと思う学生が多いためと考えられる。

	1.はい	2.いいえ	合計
1年	84.5	15.5	100.0
2年	83.3	16.7	100.0
3年	80.6	19.4	100.0
4年	54.2	45.8	100.0
合計	82.3	17.7	100.0

さらに、性別とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値が＜．0001となり有意差が見られた。女性の方が男性に比べ、「免許・資格の取得」に対して積極的だ。これは年々女性が社会進出を強く望んでいることに関係しているかもしれない。社会に出て働くために男性と女性では、就職することにおいて女性の方がまだまだ雇用条件が厳しいと考えられる。そのため大学に来て専門分野を学んで、資格を取ろうとしている学生が増えていると考えられる。

	1.はい	2.いいえ	合計
女	89.8	10.2	100.0
男	80.6	19.4	100.0
合計	82.2	17.8	100.0

N．免許・資格取得の動機

問 13.在学中に免許・資格を取得したいですか？

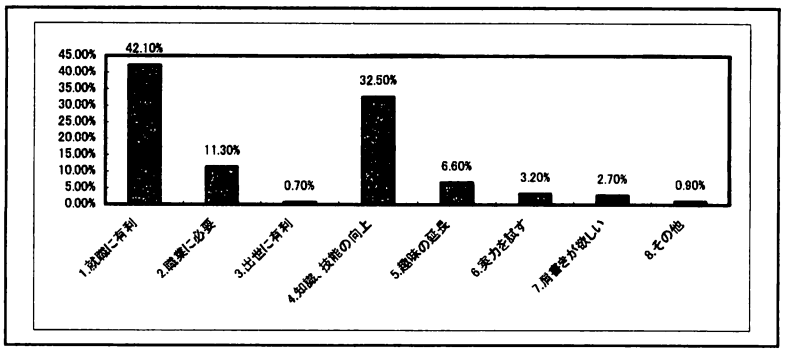
という問に対して「はい」（約 2,500 名）と答えた学生を対象に尋ねた。

問 13－１　免許・資格を取得したいと思う最も強い動機を選んでください。

１.就職に有利　２.就きたい職業に必要　３.出世に有利

４.知識、技能の幅を広げたい　５.趣味の延長として　６.自分の実力を試したい

７.「ＯＯ士」のような肩書きがほしい　８.その他（　　）



該当者（2,470 名）から、無回答（22 名）を除いたものをグラフにした。

この結果、在学中に「免許・資格を取得したい」と答えた学生の中で、もっとも強い動機は「1.就職に有利」（42.1%）と多く答えている。次に多いのは、「4.知識、技能の幅を広げたい」（32.5%）ということであり、四人に三人はこの二つを選んだ。全体的に卒業後のことを考えている。

次に、学部とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値が＜．0001となり有意差が見られた。工学部の学生は「1.就職に有利」（48.2%）と、約５割の学生が答えている。工学部は３つの学部の中でも一番専門職が強い学部で授業でも機械などの専門的知識を学ぶ時間が多い。そのため、就職に対しても専門的知識を就職に生かそうとしている学生が多いと考えられる。どの学部とも２番目に「4.知識技能の向上」が約 30.0%と多い。

	1.就職に有利	2.職業に必要	3.出世に有利	4.知識技能の向上	5.趣味の延長	6.実力を試す	7.肩書きが欲しい	8.その他	合計
工学部	48.2	8.7	1.1	31.4	4.7	2.5	2.9	.4	100.0
総合情報学部	39.3	15.6	.3	32.1	6.1	3.8	2.0	.8	100.0
理学部	37.8	11.9	.6	33.7	8.3	3.7	2.7	1.4	100.0
合計	42.1	11.3	.7	32.5	6.6	3.2	2.7	.9	100.0

ｏ．取得したい資格（問 13-２）

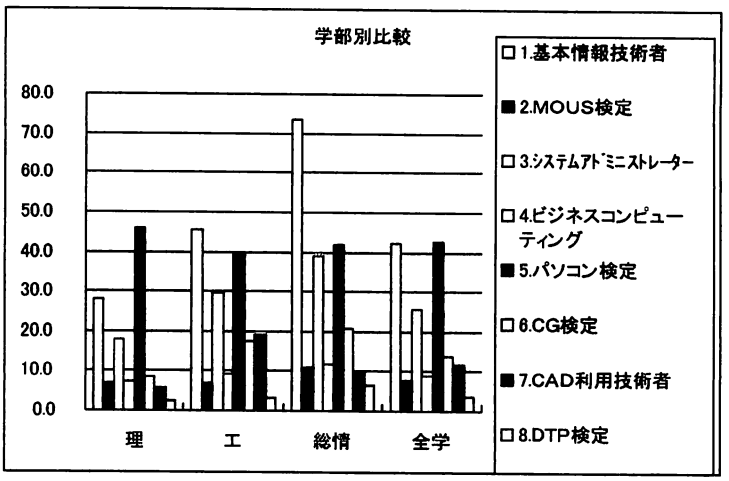
問 13「在学中に免許・資格（教員免許と学芸員資格は除く）を取得したいですか？」との問いに「はい」と答えた 2,470 名を対象に、どのような資格に関心を示しているかを知るために、資格の種別に著名な資格を網羅し、取得したいと思うもの全てに○をつけてもらった。以下の資格群に理科系の大学に似合わない資

格も多数混ざっているが、医療・福祉系や文系、芸術系を含んだ４大学合同の調査であるためである。なお、問 14 では、各種資格の認知度を知るため、この問 13−２で使用したものと同じ資格リストを掲げ、内容を少しでも知っている資格を全て選んでもらったが、以下紙数の制限もあり割愛することにする。取得したい資格をたずねるこの問いで、各種資格の認知度も一応はカバーできうると考えるからである。

ａ．パソコン・マルチメディア系

学部比較では、どの資格においても総合情報学部に取得希望者の割合が高いことが分かる。特に「基本情報技術者」を希望する割合が 70%を超え、飛び抜けて高い。この資格の希望者は工学部においてもほぼ半数近くに達する。他方、理学部では「パソコン検定」への好みが一番高く、ほぼ半数に達している。

以下、取得希望率が 10%に満たなかった「ＭＯＵＳ検定」と「ビジネスコンピューティング」と「ＤＴＰ検定」のデータを排除したグラフを基に学科毎の特徴を比較する。



理学部においては、応用物理学科の学生が他の学科の学生に比較して資格取得に積極的姿勢を示している。過半数以上が「基本情報技術者」資格を希望し、「システムアドミニストレーター」資格に対しても 40%近い希望割合を示す。応用数学科の学生の４割強も「基本情報技術者」を希望するが、化学、基礎理学、生物化学の３学科の学生はこの資格に対する好みは強くない。この３学科の学生は対照的に「パソコン検定」に比較的強い興味を示している。

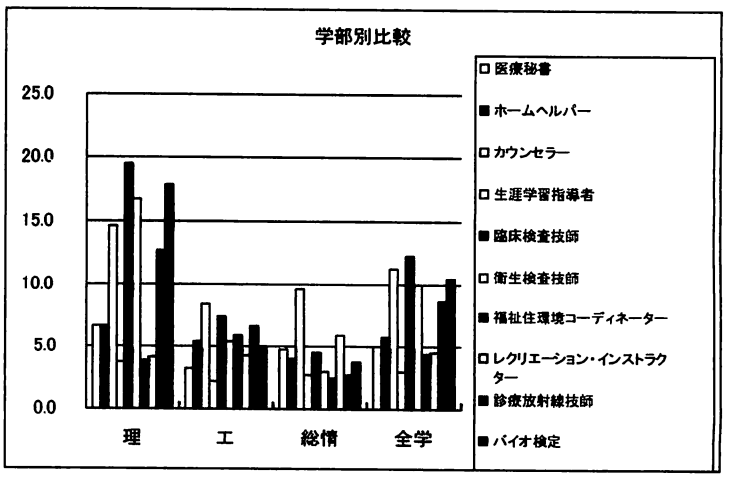
工学部においては情報工学科と機械システム学科の学生がこの種の資格に対して強くかつ特徴的な反応を示している。情報工学科の学生は特に強く「基本情報技術者」資格を希望し、「システムアドミニストレーター」にも過半数が興味を示している。一方、機械システム学科の学生の半数以上が「ＣＡＤ利用技術者」資格を取得したいと答えている。この資格に強い反応を示したのは全学で機械システム学科だけであった。電子工学科の学生は情報工学科の学生に続いて「基本情報技術者」の取得希望割合が高かったが、第２位にランクされた資格は「パソコン検定」であり、その点で情報工学科の学生と好みが別れているといえる。

総合情報学部においては、どの学科の学生も「基本情報技術者」資格の取得を強く希望している。とりわけ、情報科学とシミュレーション物理学科、社会情報学科の３学科の学生の希望率は極めて高い。第２位の希望資格において、社会情報学科が「パソコン検定」であるのに対してシミュレーション物理学科「システムアドミニストレーター」であり、情報科学科は両資格が拮抗している点でそれぞれの学科の性格が反映しているものと考えられる。

ｂ．医療・福祉・健康系

この種の資格の取得を希望するものの割合は全般的に高くはないが、学部比較では理学部にいくつかの資格に対してやや強い反応が示された。

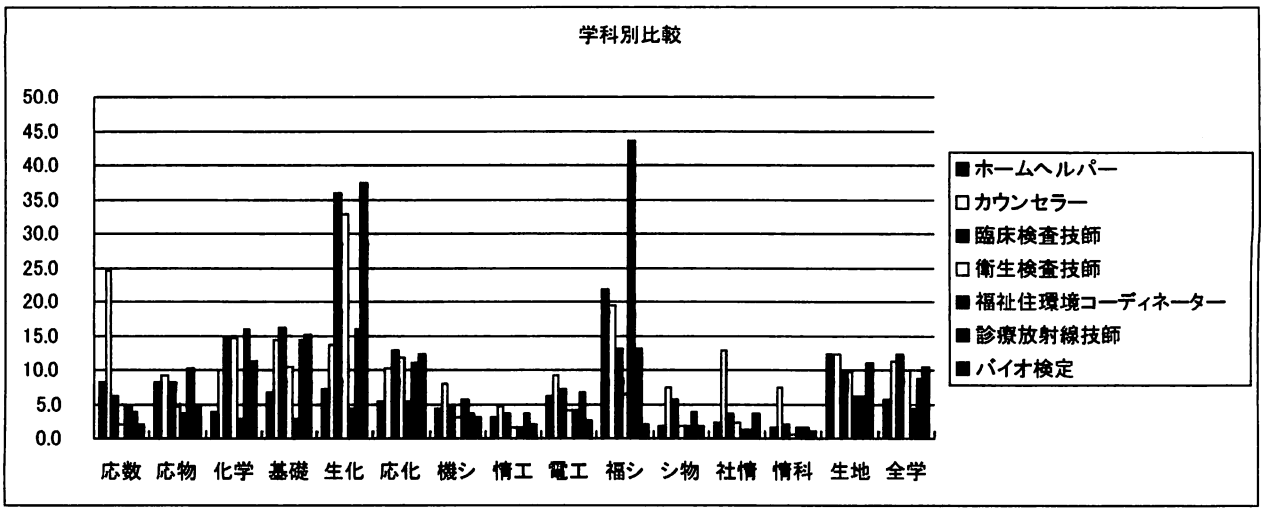
学科毎の比較グラフを作成してみれば、学科の性格に応じた特定の資格に強く反応するいくつかの学科が存在することが明らかである。たとえば、理学部では生物化学科の学生が「バイオ検定」、「臨床検査技師」、「衛生検査技師」の３資格に対して３人に



1人強の学生が興味を示している。応用数学科の学生の4人に1人が「カウンセラー」資格を取得したいと答える。これは教職を希望する学生の一部が教職との連動で反応したものと思われる。

工学部では福祉システム学科の「福祉住環境コーディネーター」に対する反応が飛び抜けて目立っている。この学科の学生は「ホームヘルパー」と「カウンセラー」にも 20%近い学生が興味を示している。応用数学科の学生が「カウンセラー」に関心を示すのはスクールカウンセラーへの志向と思われるが、福祉システム学科の学生が志向する「カウンセラー」は社会福祉施設等におけるものと思われる。

総合情報学部は全体にこの種の資格に対する関心は低いようである。その中で、生物地球システム学科がどの資格に対しても均等な関心を示していることが他の学科と異なる点として目を引く。しかし、そうはいっても関心の割合は 10%前後でしかない。

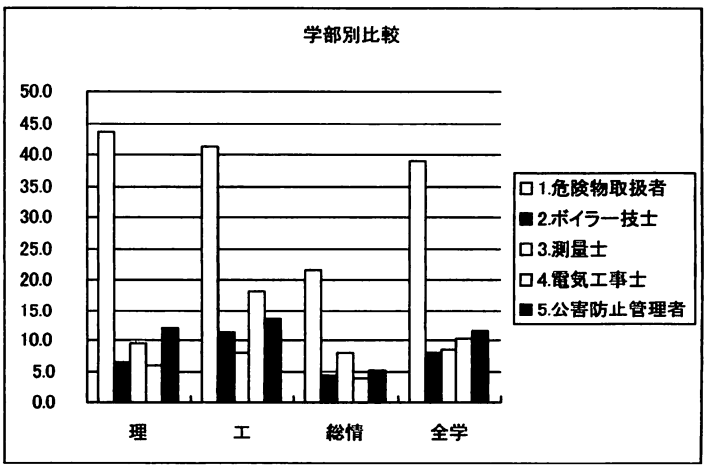


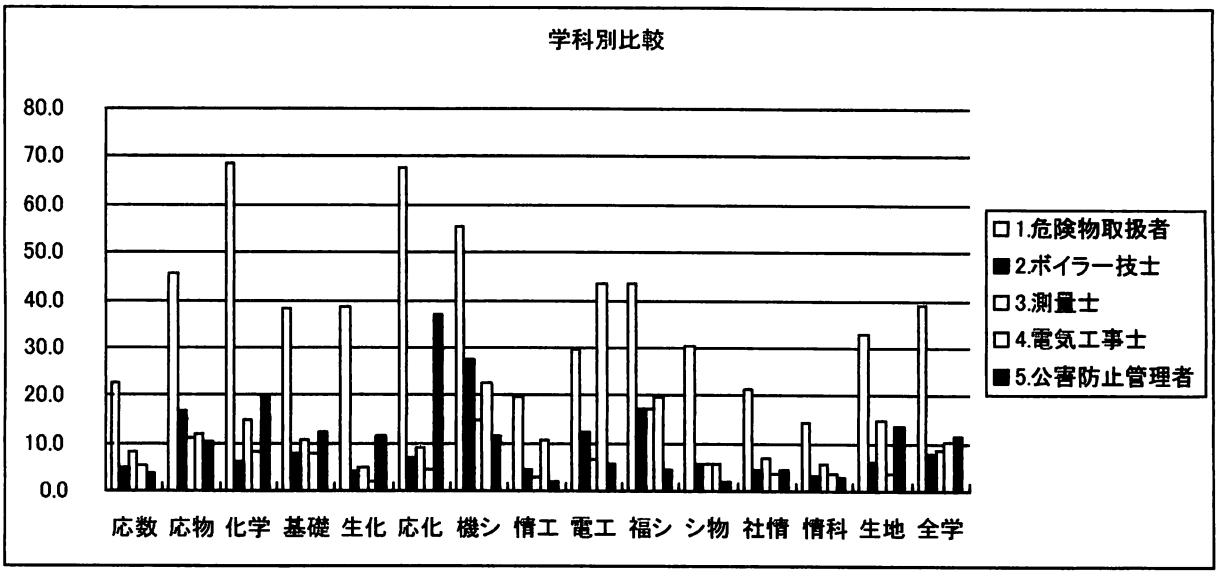
c．設備・施工系

この系列の資格の中で一番強い反応が示されたのは「危険物取扱者」資格であった。理学部と工学部では40%強の学生が取得を希望している。総合情報学部の学生はこの種の資格にあまり関心を持っていないようである。

「危険物取扱者」資格について学科別で見てみると、化学科と応用化学科が特に強く反応していることが分かる。それぞれ 70%近くの学生がこの資格の取得を希望している。機械システム学科がそれに続き、過半数の学生が取得を希望しており、さらに応用物理学科、基礎理学科、生物化学科、福祉システム学科の4学科においても約4割近い者が関心を示している。

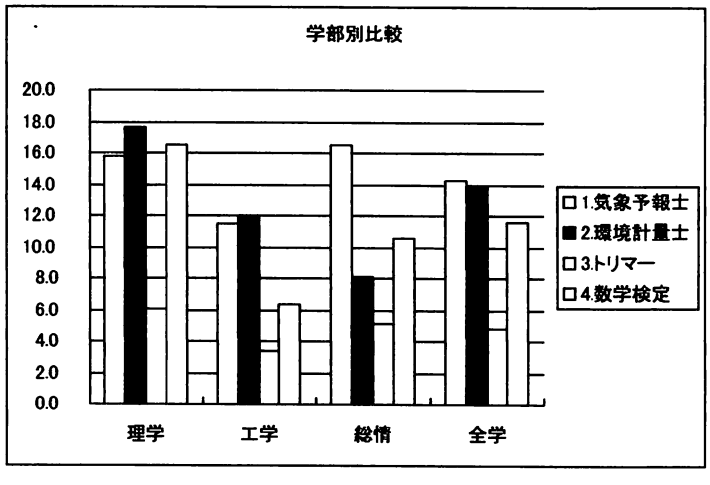
その他目に付くところは、工学部の電子工学科の学生の4割強が「電気工事士」資格を、応用化学科の4割弱の学生が「公害防止管理者」資格の取得を希望していることである。



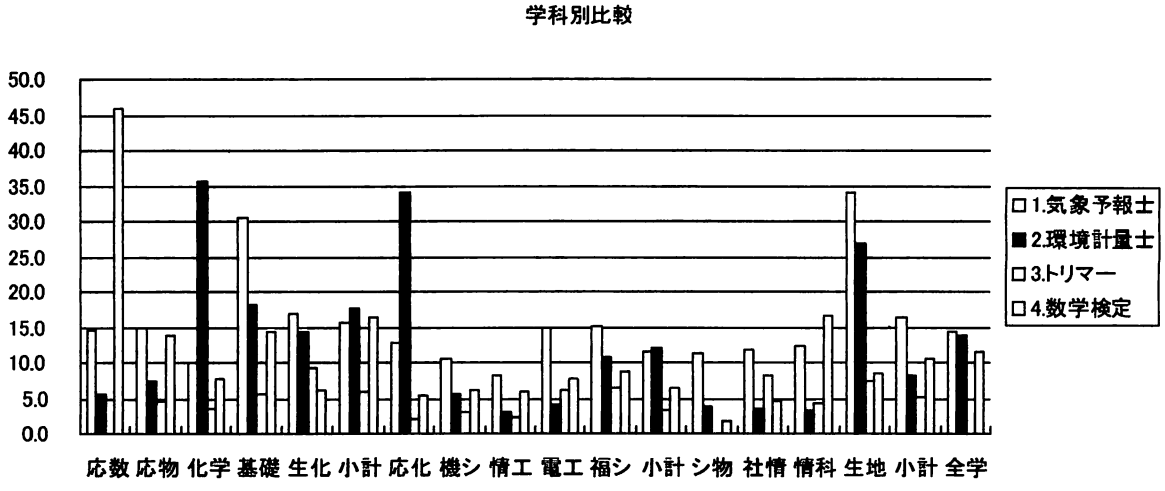


D．自然科学・動物系

全般的にこの系列の資格に対する嗜好は強くない。しかし、学部別にやはり顕著な差が出ている。理学部では「トリマー」を除く他の３つの資格に対して 15% 前後の学生が関心を示している。総合情報学部の学生は「気象予報士」のみに比較的強い関心を示す。工学部の学生はこの種の資格にあまり関心を持っていないようである。

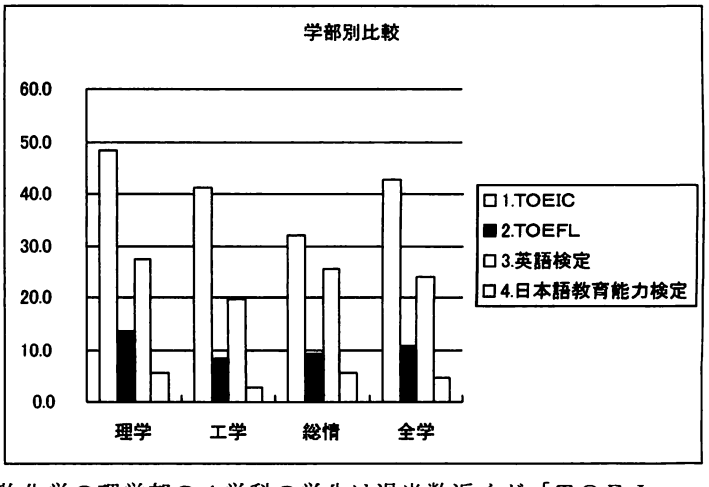


学科別に比較すると、これも学科の性格を反映し、顕著な差が現れる。応用数学科の学生の半数近くが「数学検定」の取得を希望している。しかし、同じく数学系の性格が強いと思われる情報科学科ではこの資格に対する関心はそれほど高くはない。化学科と応用化学科の学生の３人に１人強が「環境計量士」の資格を欲していることから、この資格は化学系の学生に人気があるものと思われる。「気象予報士」資格は基礎理学科と生物地球システム学科の学生の間に人気があることも見て取れる。両学科に地学系の研究室があるからであろう。

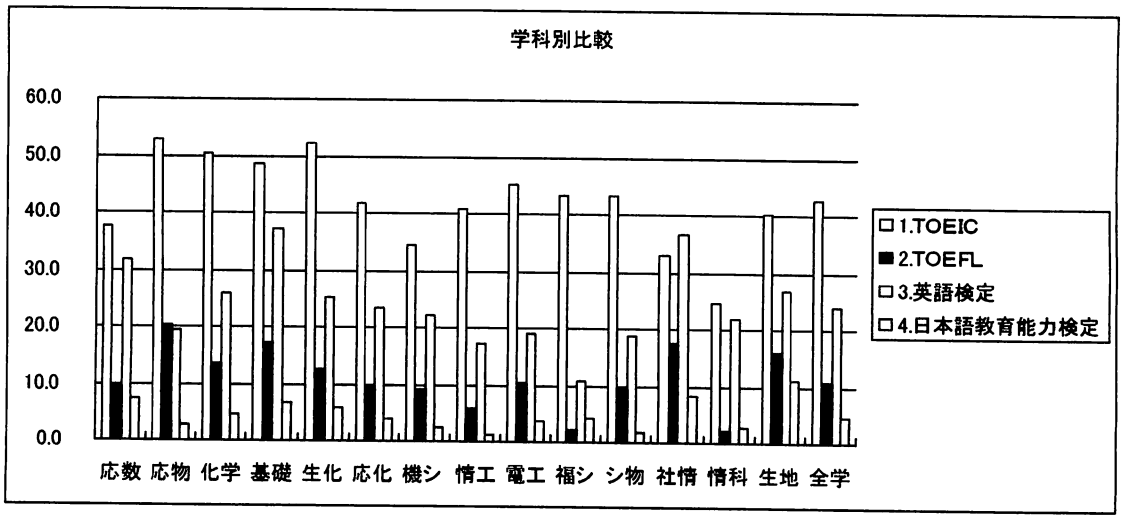


ｅ．語学・留学系

この系列の資格に関してはどの学部も類似の傾向を示す。すなわち、「ＴＯＥＩＣ」が圧倒的人気を博し、ついで「英語検定」が続き、「ＴＯＥＦＬ」の希望者は 10%程度にしか達しない。「日本語教育能力検定試験」にはほとんどの学生が関心を示さない。一般の評価として、「ＴＯＥＦＬ」は留学する際の指標として使われ、「ＴＯＥＩＣ」は就職試験において有力視される資格であるといわれていることから、本学の学生はこの系列の資格に関しては、留学への関心と言うよりは、就職の観点から取得の関心を抱いているといえよう。

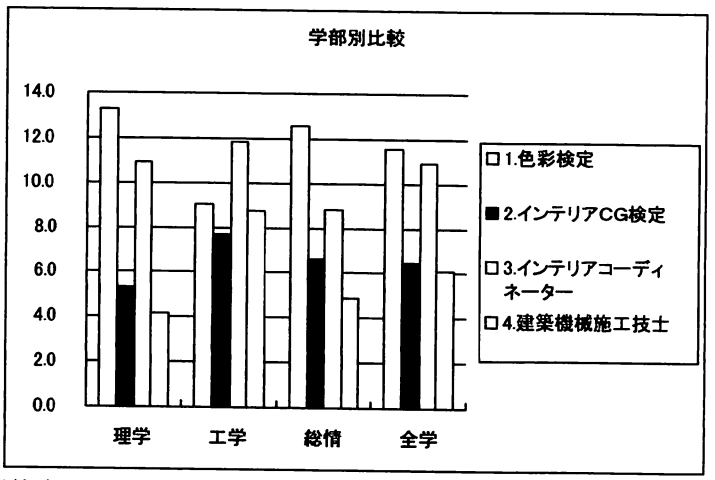


学科別にみると、応用物理、化学、基礎理、生物化学の理学部の４学科の学生は過半数近くが「ＴＯＥＩＣ」資格に関心を示している。反対に、情報科学と社会情報の総合情報学部の２学科はこの資格に対して他の学科と比較して弱い関心しか示さない。就職をにらんだ時、「ＴＯＥＩＣ」は理学部の学生にとって自己ＰＲの手段として強い魅力を与えているが、総合情報学部の学生はそれに替えるにパソコン系の資格に自己ＰＲの手段を見いだす傾向が強いといえよう。そのことはパソコン系の資格に対する総合情報学部の学生の極めて高いニーズが裏付けているであろう。

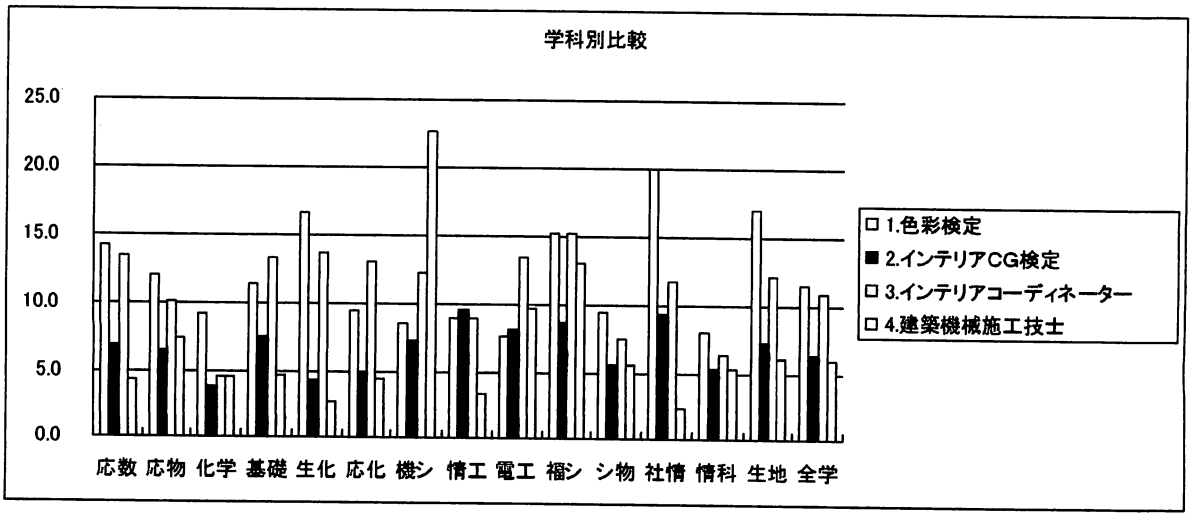


f．インテリア・建築系

全般的にこの系列の資格に対する嗜好は強くない。しかし、学部別にやはり顕著な差が出ている。理学部と総合情報学部では１番人気は「色彩検定」、第２位は「インテリアコーディネーター」であったのに対し、工学部は１番人気が「インテリアコーディネーター」であり、第２位は「色彩検定」と「建築機械施工技師」が拮抗している。

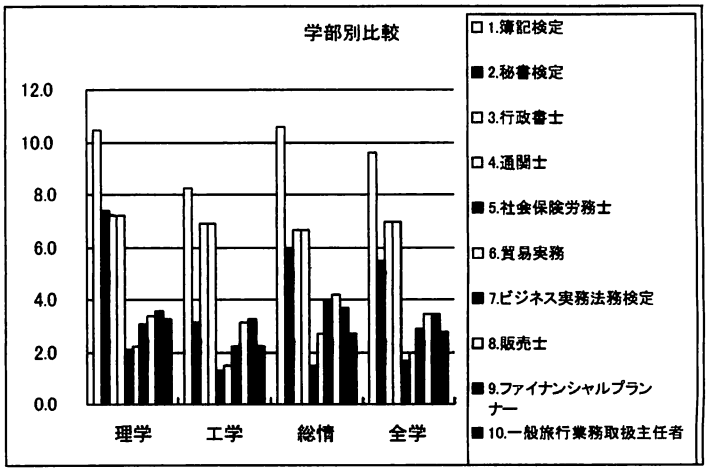


学科別に比較すると、これも学科の性格を反映し、顕著な差が現れる。まず目に付くのは、機械システム学科では「建築機械施工技師」に社会情報学科では「色彩検定」の資格にそれぞれ 20%を越す学生が強い関心を示していることである。「色彩検定」に対しては生物化学科、生物地球システム学科、福祉システム学科の学生の中にも関心を示すものが相当存在している。福祉システム学科の学生は「インテリアコーディネーター」資格にもそれに劣らぬ割合で関心を示している。他方、化学科、シミュレーション物理学科、情報科学科の学生達はこの種の資格にあまり関心がないようである。

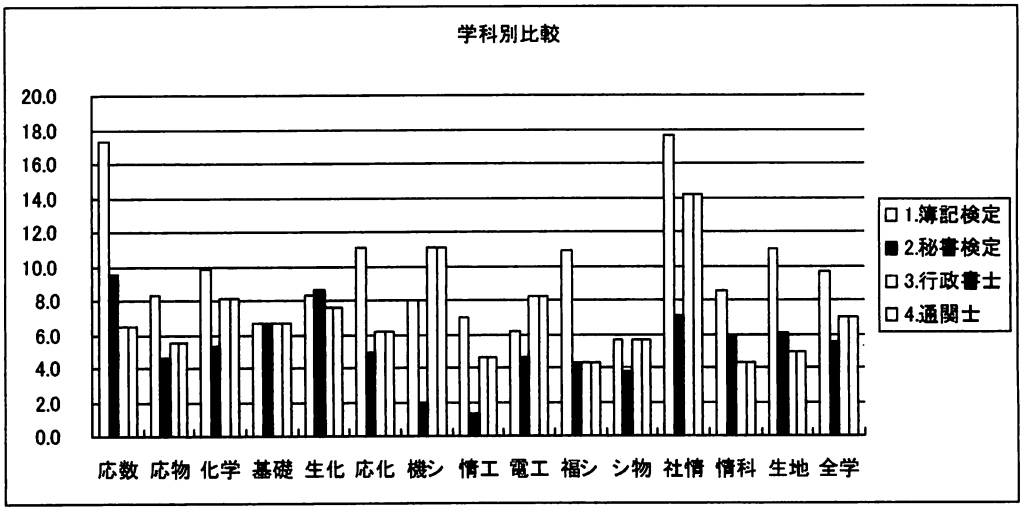


g．商業実務系

商業、経済系の学科を有していないこともあり、本学学生は全般的にこの系列の資格に対する嗜好は強くない。学部間の差もほとんど認められない。かろうじて 10%近くの関心が寄せられたのは「簿記検定」のみであり、それに次いで「行政書士」と「通関士」がどの学部においても若干の関心を集めている。



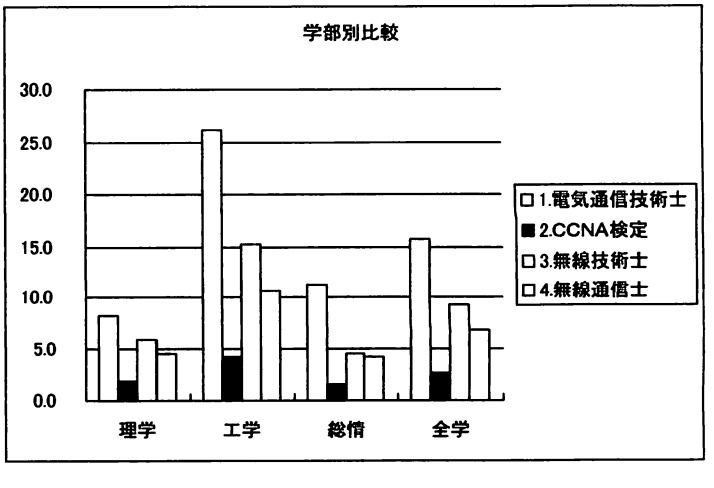
どの学部においても５%以下の関心しか集めなかった資格に関するデータを削除して学科毎の比較グラフを作成すると、やはり学科毎の差異が表れてくることが興味深い。まず、目に付くことは、社会情報学科の学生がこの種の資格一般に対し高い関心を示していることである。応用数学科の学生の相当多くの者が「簿記検定」資格に強い関心を示していることも注目される。「行政書士」と「通関士」を指摘する割合はどの学科においてもほとんど同じであることも偶然の一致であろうか。その中で機械システムの学生の１割強の者がこの両資格に関心を示していることも目に付く事態である。



h．通信・ネットワーク系

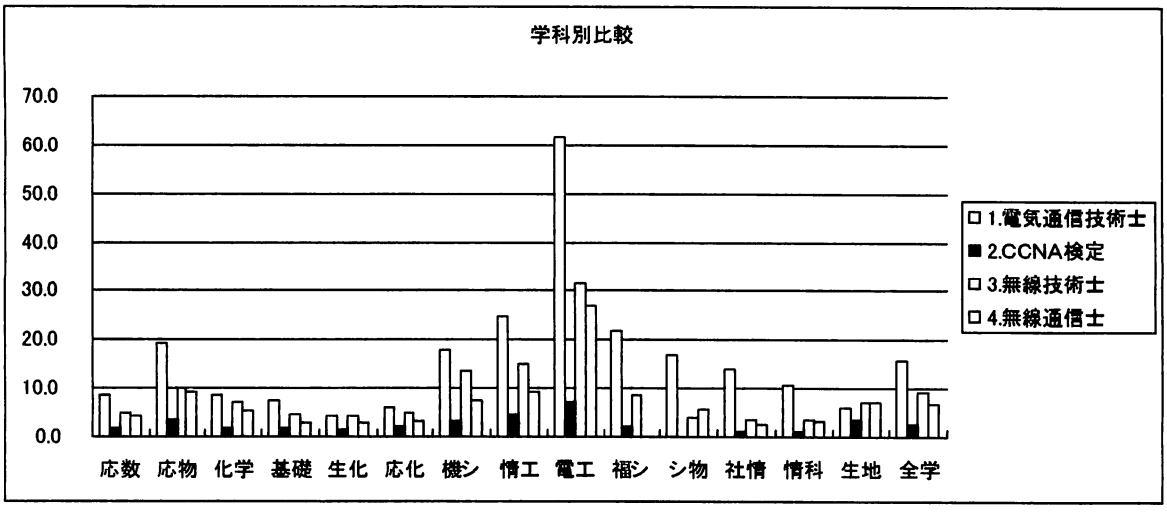
この系列の資格に対する嗜好は学部間で大きく異なっている。工学部での関心が全般的に高く、とりわけ「電気通信技術士」資格を取得したい者は４人に１人強いる。他方、総合情報学部では「電気通信技術士」資格のみにやや強い関心を示しているが、理学部はこの種の資格にはほとんど関心がないようである。

学科別の比較表を作成してみると、上記の傾向の原因が明らかに見て取れる。即ち、工学部の高い関心率は電子工学科の学生の関心率に支えられたものであることである。６割強の学生が「電気通信技術士」の資格を取得したがってい



る事実を関係者は見逃すことはできないであろう。また３割近い者が「無線技術士」と「無線通信士」の資格に関心を示していることも見過ごしにできない事態である。

それ以外では、総合情報学部では生物地球システム学科を除く３学科と理学部では唯一応用物理学科の学生が「電気通信技術士」に相当の関心を示していることも注目される。



Q．知っている資格（問 14）

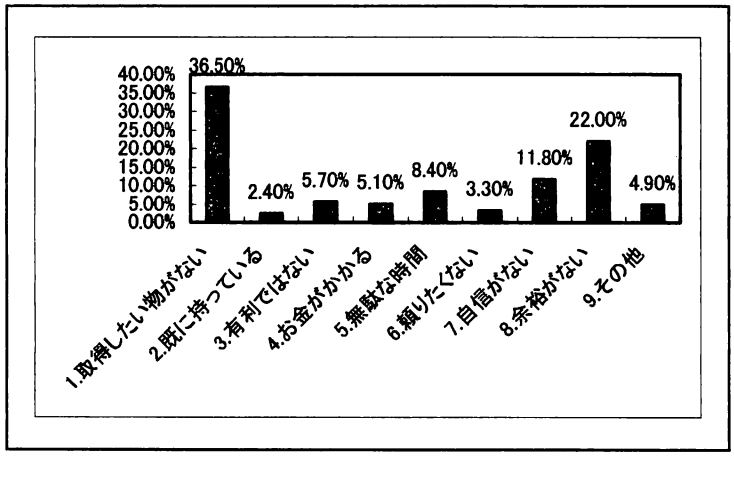
a．パソコン系

P．取得を希望したくない理由

問 13. 在学中に免許・資格を取得したいですか？

という問に対して「いいえ」（約 500 名）と答えた学生を対象に尋ねた。

問 13－３　免許、資格を取得したいと思わない主たる理由は何ですか？	
1．取得したい免許、資格がない	
2．取得したい免許、資格はすでに持っている	
3．就職に有利になるとは思わない	4．お金がかかる
5．無駄な時間、労力を費やす	6．資格に頼りたくない
7．自信がない	8．卒業、進級に精一杯で余裕がない
9．その他（　　）	



該当者（552 名）から、無回答（38 名）を除いたものをグラフにした。

この結果、在学中に「免許・資格を取得したくない」と答えた学生の中で、一番多かった答えが「1. 取得したい免許・資格がない」（36. 5%）、次に「8. 卒業、進級に精一杯で余裕がない」（22. 0%）だった。「1. 取得したい免許・資格がない」のではなく、将来仕事をしていく上でどのような免許・資格が必要かわからない学生が多いためと考えられた。

次に、性別とクロス集計した結果、カイ２乗 p 値が＜. 0002 となり有意差が見られた。「1. 取得したい免許・資格がない」と、答えた男性は（35. 6%）、

女性は（43.5%）と多い。免許・資格を「6.頼りにしたくない」（男性 3.5%＞女性 2.2%）、「5.無駄な時間」（男性 9.0%＞女性 2.2%）と、あまり免許・資格に対して執着心の無い学生が男性の方が若干多い。

	1.取得したい物がない	2.既に持っている	3.有利ではない	4.お金がかかる	5.無駄な時間	6.頼りたくない	7.自信がない	8.余裕がない	9.その他	合計
女	43.5	0.0	6.5	6.5	2.2	2.2	8.7	10.9	19.6	100.0
男	35.6	2.8	5.3	5.1	9.0	3.5	12.0	23.3	3.5	100.0
合計	36.3	2.5	5.4	5.2	8.4	3.3	11.7	22.1	5.0	100.0

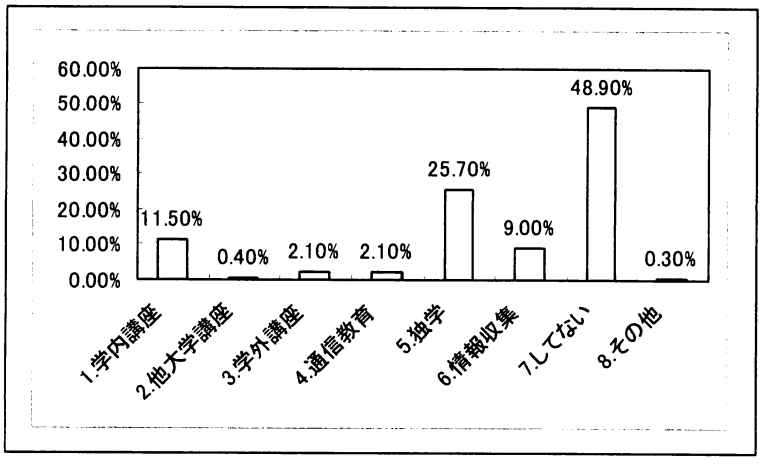
そして「8.卒業・進級に精一杯で余裕がない」（男性 23.3%女性 10.9%）と男性の方が学業に追われているためと考えられる。

R．免許・資格取得への取り組み

この問は全学生を対象とする質問である。

問 15　免許・資格の取得（教員免許と学芸員資格は除く）のために何か取り組んでいますか？あてはまるものすべてにOをつけてください。

1．学内講座　2．他大学の講座　3．専門学校・学外の資格取得講座
4．通信教育　5．参考書・問題集などで独学　6．情報収集
7．していない　8．その他（　　）



問 15 の各項目に回答した人数すべてをグラフにした。

この結果、「免許・資格の取得のために何か取組んでいるか」と、いう質問に対してほとんどの学生が「7.していない」（48.9%）と答えた。在学中に「免許・資格を取得したい」と、答えた割合が 82.1%だったのに対して現状では何も取り組んでいない。取り組んでいても「5.独学」（25.7%）がほとんどで、次に「1.学内講座」（11.5%）が多かった。

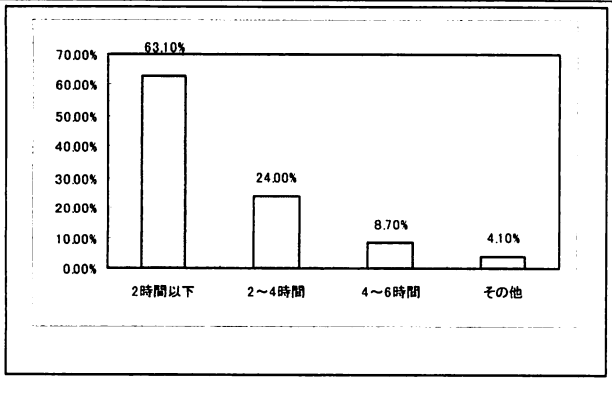
S・T・Uは以下選択問題である。

S．取り組み時間

問 15.免許・資格の取得のために何か取り組んでいますか？
と、いう問に対して何らかの形で「している」（約 1400 名）と答えた学生を対象に尋ねた。

問 16　その資格・免許取得のため週にどのくらい取り組んでいますか？（一つ選択）

1．２時間以下　2．２～４時間
3．４～６時間　4．その他（　　時間）



1,437 名から無回答（134 名）をのぞいたものをグラフにした。

「２時間以下」（63.1%）と答えた学生が最も多かった。勉強をしていても、ほとんどの学生が独学をしているためか勉強時間がとても短かった。

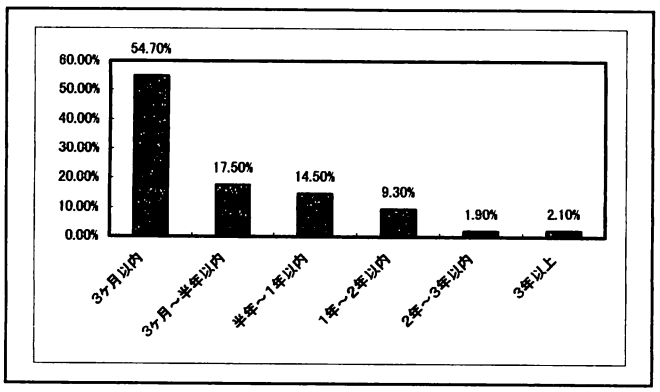
T．取り組み期間

問 15.免許・資格の取得のために何か取り組んでいますか？

という問に対して何らかの形で「している」（約 1,400 名）と答えた学生を対象に尋ねた。

問17　どのくらいの期間取り組んでいますか？（一つ選択）

１．３ヵ月以内　　２．３ヵ月～半年以内
３．半年～１年以内　　４．１年～２年以内
５．２年～３年以内　　６．３年以上



1,437 名から無回答（142 名）を除いたものをグラフにした。

この結果、ほとんどの学生が「3 ヶ月以内」（54.7%）と、取り組んでいる期間は短い。問 16 で「週にどのくらい取り組んでいますか」と、いう問いに対して、ほとんどの学生が「２時間以下」と答えているためあまり取り組んでいないという結果は妥当と考えられる。このことからほとんどの学生が免許・資格を取得のための取り組みを始めて間もないということがわかった。

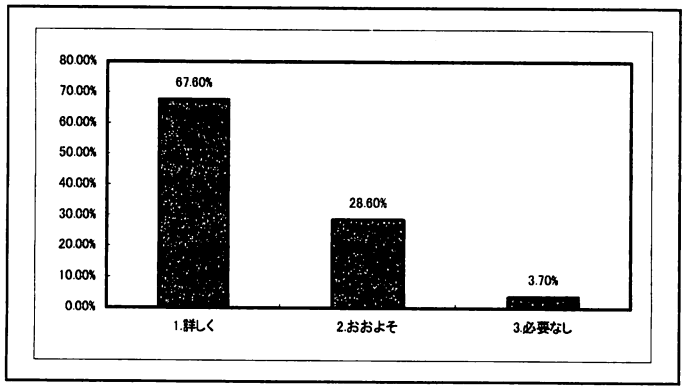
Ｖ．免許・資格の情報提供

この問から再び全学生を対象とする質問に戻る。

問 19　学内で免許・資格取得の情報をどの程度提供してほしいですか？

１．できる限り詳しく　２．おおよその概略を　３．必要ない

3008 名から無回答（147 名）を除いたものをグラフにした。



この結果、ほとんどの学生が学内で免許・資格の情報を「1. 詳しく」（67.6%）欲しいと答えている。「3. 必要なし」（3.7%）と、答えた学生はほとんどいない。これは、免許・資格の勉強を取り組み始めて間もない学生が多いためだと考えられる。そのため比較的に情報が入手しやすい学内での情報提供には、賛成の意見が集まったと考えられる。

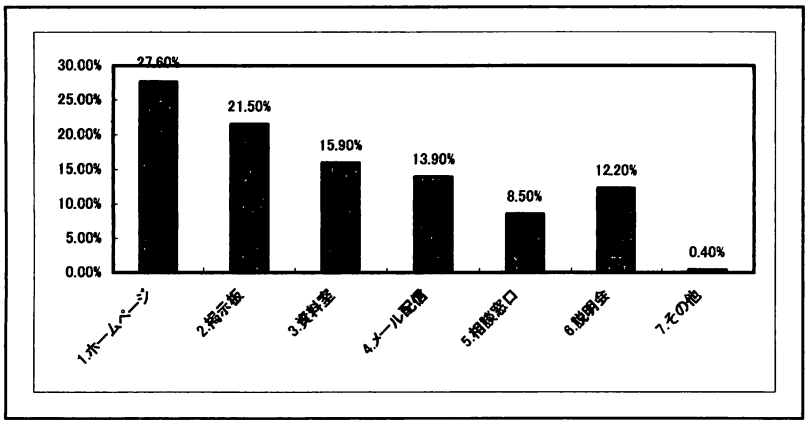
次に、性別とクロス集計した結果、カイ２乗ｐ値が＜．0001 となり有意差が見られた。女性の方が男性に比べ学内での情報提供を「1. 詳しく」（女性 77.2%＞男性 65.5%）という声が多かった。それに対して、男性は女性に比べ「2. おおよそ」（女性 21.4%＜男性 30.3%）、「3. 必要なし」（女性 1.4%＜男性 4.2%）と、積極的でない傾向をしめた。

	1. 詳しく	2. おおよそ	3. 必要なし	合計
女	77.2	21.4	1.4	100.0
男	65.5	30.3	4.2	100.0
合計	67.6	28.7	3.7	100.0

W．希望する情報提供手段

問 20　学内での情報提供の手段としていいと思うもの全部に○を付けて下さい。

1．ホームページ　　2．専用掲示板　　3．専用資料室
4．メール送信　　5．相談窓口　　6．説明会
7．その他（　　）



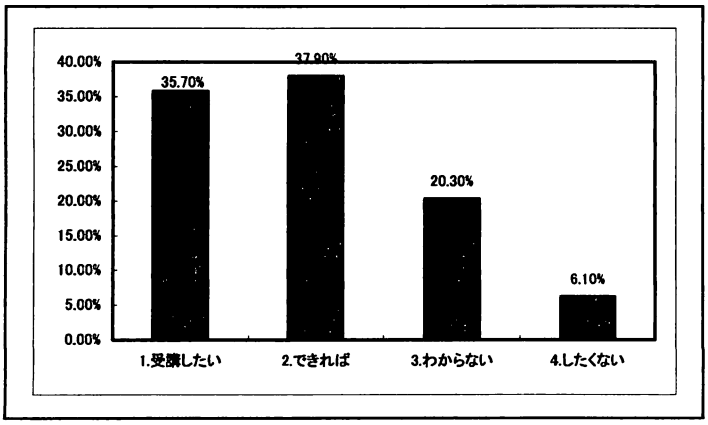
問 20 に示した各手段それぞれを選択した人の割合を整備しグラフにした。

この結果、ここでは「ホームページ」(27.7%) が一番多かった。これは、パソコンの普及が影響しているのではないかと思われる。大学での連絡事項が今現在「2. 掲示板」(21.5%) なので、一番多くなると思われたが、「1. ホームページ」(27.7%) の方が多かった。「2. 掲示板」と違って、どこからでも見えるというのが理由と考えられる。「4. メール配信」(13.9%) は「パソコン・携帯電話へのメール配信」としていたら、もう少し数値が変わっていたと考えられる。それは、パソコンよりも携帯電話の方が普及しているので、便利がいいからである。「4. メール配信」だとパソコンだけのイメージが感じられるたと考えられる。

X．学内講座の受講意欲

問 21　学内で免許・資格に関する講座があれば受講したいですか？（1 つ選択）

1．ぜひ受講したい　　2．できれば受講したい
3．わからない　　4．したくない



3008 名から無回答（145 名）を除いたものをグラフにした。

この結果、「1. ぜひ受講したい」(35.7%) と、「2. できれば受講したい」(37.9%) を合わせると (73.6%) とほとんどの学生が受講にとても意欲的であった。「4. したくない」(6.1%) と答えた学生はほとんどいなかった。

次に、性別とクロス集計した結果、カイ 2 乗 p 値が<．0001 となり有意差が見られた。ここでも男性は女性に比べ「免許・資格の取得」に対して執着心の低い学生が多い。女性の側に積極的であり、男性はやや消極的

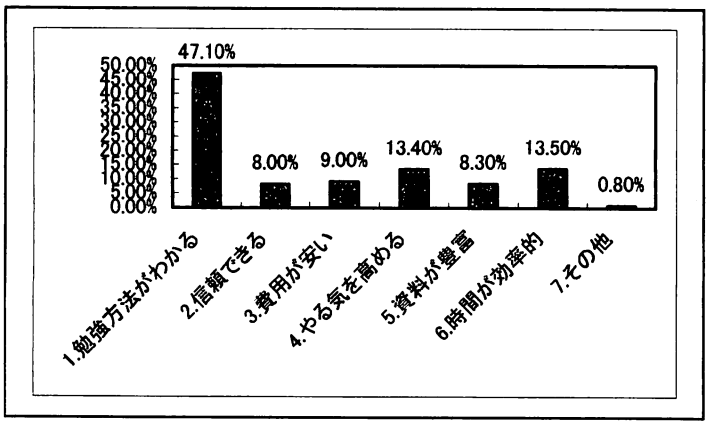
	1. ぜひ受講したい	2. 受講したい	3. わからない	4. したくない	合計
女	34.4	45.0	17.7	2.9	100.0
男	35.9	36.2	20.9	7.0	100.0
合計	35.7	37.8	20.3	6.2	100.0

であった。

Y．受講したい理由

問 21. 学内で免許・資格に関する講座があれば受講したいですか？
という問に対して「受講したい」（約 2,300 名）と答えた学生を対象に尋ねた。

問 21－１　受講したいと思う主たる理由は何ですか？ １．勉強方法がわかる　２．大学が行うので信頼できる　３．費用が安い ４．自分のやる気を高めることができる　５．資料が豊富　６．時間が効率的 ７．その他（　　）



2,242 名から無回答（118 名）を除いたものをグラフにした。

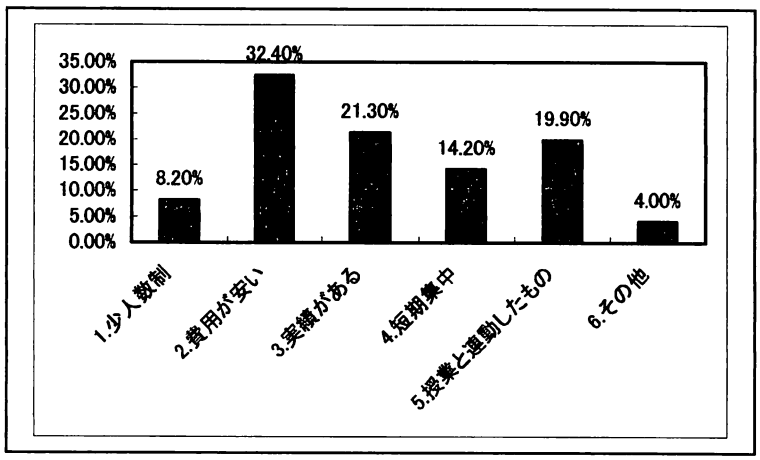
この結果、「1. 勉強方法がわかる」(47. 1%) だけ集中している。免許・資格の勉強にかける時間も短かったためか「6. 時間が効率的」（13. 5%）が、２番目に高かった。

Z．講座受講の条件

問 21. 学内で免許・資格に関する講座があれば受講したいですか？
と、いう問に対して「3 わからない」（約 700 名）と答えた学生を対象に尋ねた。

問 21－２　どのような講座であれば受講したいと思いますか？ １．少人数制　２．費用が安い　３．合格の実績がある ４．短期集中型　５．大学の授業と連動したもの　６．その他（　　）

705 名から無回答（134 名）を除いたものをグラフにした。



この結果、「2. 費用が安い」（32. 4%）と答えた学生が多かった。次に「3. 実績がある」（21. 3%）、「5. 授業と連動したもの」（19. 9%）となっている。このような、学生のニーズが出るのは当然ではあるが、大学側がサポートすることによってもう少し効率の良い方向へ行くと考えられる。

III. まとめ

今回の調査を通して、本学学生たちの学業姿勢や将来展望あるいは資格取得についての意識等の点で、以下の点が明らかになった。

まず、学業姿勢に関しては次の２点が指摘できよう。第１点は、圧倒的多数の学生が専門的に学びたいという目的を持って大学進学や学科選択を行っていることである。また、就職において採用側は自分たちの何を重視しているかという認識においても４割近くの学生が、自分たちが身につけた専門的な知識や技能であろうと答えている。この結果は我々大学人に対し、彼らの専門に対する学びの欲求を十全に充たしてやれるように教育面における真摯な工夫と努力を行うべきことを、はっきりと課しているものと受け止めるべきであろう。

第２点に、本学の学生たちは、自ら主体的に予習復習に取り組む熱心さに欠けるところはあるが、宿題やレポートが課せられればまじめに取り組むという姿勢を示していることである。積極さという点では物足りないところがあるが、素直でまじめという学生イメージが調査結果から浮かび上がってくる。彼らの素直でまじめな点をより伸ばしてやり、主体的な学習を行う能力をいかに育んでいくかということが、我々に問われていると言えよう。

次に、就職や将来展望という点について、まず第１に、学生たちは既に学歴社会的傾向は薄れ、実力社会的傾向が強まっていると認識しているようである。第２に、多くの学生は日本社会の将来についても自分の卒業時の就職状況についても、ともに明るい展望を抱いていないという点が指摘できる。学生たちの間には、将来についての漠とした一抹の不安感が漂っているようである。彼らに夢を与え明るい将来展望を抱かせることも大学教育に課せられた課題であるといえよう。

最後に資格取得の点では、まず第１に、ほとんどの学生が大学入学までに英語検定以外の資格を取得していないことが明らかになった。次に、やはり、仮説通り、自分の専門に関連した資格に強い関心を持っていることも明らかである。専門以外の資格に関しては、時代を反映してか、どの大学においても情報関連（パソコン検定や基本情報技術者）と語学関連（ＴＯＥＩＣや英語検定）の資格に対する関心が共通して高いことも分かった。

学生に対する資格支援のあり方を検討する上で、まず重要なことは、学生の求めている資格を的確に把握することである。各学部・学科ごとに取得希望率の高い資格に対しては、それぞれの部署で主体的に対応すべきである。しかし、部署ごとの取得希望率はそれほど高くないが、大学として合計すればかなり高い数値を示す資格に対しては、資格取得支援センターで対応を検討すべきであろう。

一方、学生への資格取得に関する積極的な情報提供も不可欠である。学生の能力や適性に応じた資格取得支援を行うためには、インターネット等を活用してより正確でタイムリーな情報提供を行うことに加えて、資格取得に関するオリエンテーションを徹底することも重要な支援方策となろう。ただし、資格取得支援は、大学教育の付加価値を高めるためのものであり、目先の資格を短絡的に追い求めて大学教育の本質を見失ってはならないことはいうまでもない。

なお、資格取得支援のあり方をめぐる今後の検討課題として、①資格取得支援の意義を学部・学科の教育目標と関連づけて再認識すること、②企業等が大学卒業者に求める資格について種々の角度から分析すること、③現時点では学生や企業等の注目度は低いが、将来は需要の高まることが予想される資格を分析すること、等が挙げられる。これらの課題については、機会を改めて検討したい。

Survey on University Students' Attitudes toward Obtaining Certificates and Licenses: Attitudes and Interests of Okayama University of Science Students (Second report)

-An attitude and an interest in studies and acquiring licenses and certificates of students of Okayama University of Science-

Hironori NAKAJIMA, Masahiko SOGA,and Etsuji KOYAMA*
Tokiho OHMORI**, Yuusuke AOYAMA** Toyohisa MIYAJI**, Toshinori TSUBOI**,
Eriko FURUTA**, Syota ORII**, Yousuke HATAKEYAMA**, Chie INOUE**
Okayama University of Science Department of Applied Science
1-1 Ridaicho Okayama 700-0005 Japan
**Kurashiki University of Science and the Arts 2640 Nishinoura Tsurashima Kurashiki Okayama*
710-0000 Japa
*** Okayama University of Science Department of Applied Science, Science of Education*
1-1 Ridaicho Okayama 700-0005 Japan
(Received November 1, 2002)

We thought it is important to understand the students' accurate need and opinion to support students more effectively. For this reason, this survey is conducted to know an attitude and an interest in studies and acquiring licenses and certificates of students.

This survey shows following results. (1) The majority of the students chose university and courses because they want to have special education. (2) The students' attitude toward study is very obedient and serious. (3) Students want licenses and certificates related to their major. (4) Students are interested in IT and language related licenses and certificates.